

## 1. 地先の課題モデル

### (1) 地先モデルの概要

- ・ 地先モデルでは、主に地域の人々と川との関係を中心に、河川の維持管理活動、河川環境（美化・自然環境）の保全活動、河川空間の利用、啓蒙・文化活動等にかかわる課題を対象とします。

### (2) これまでの開催状況

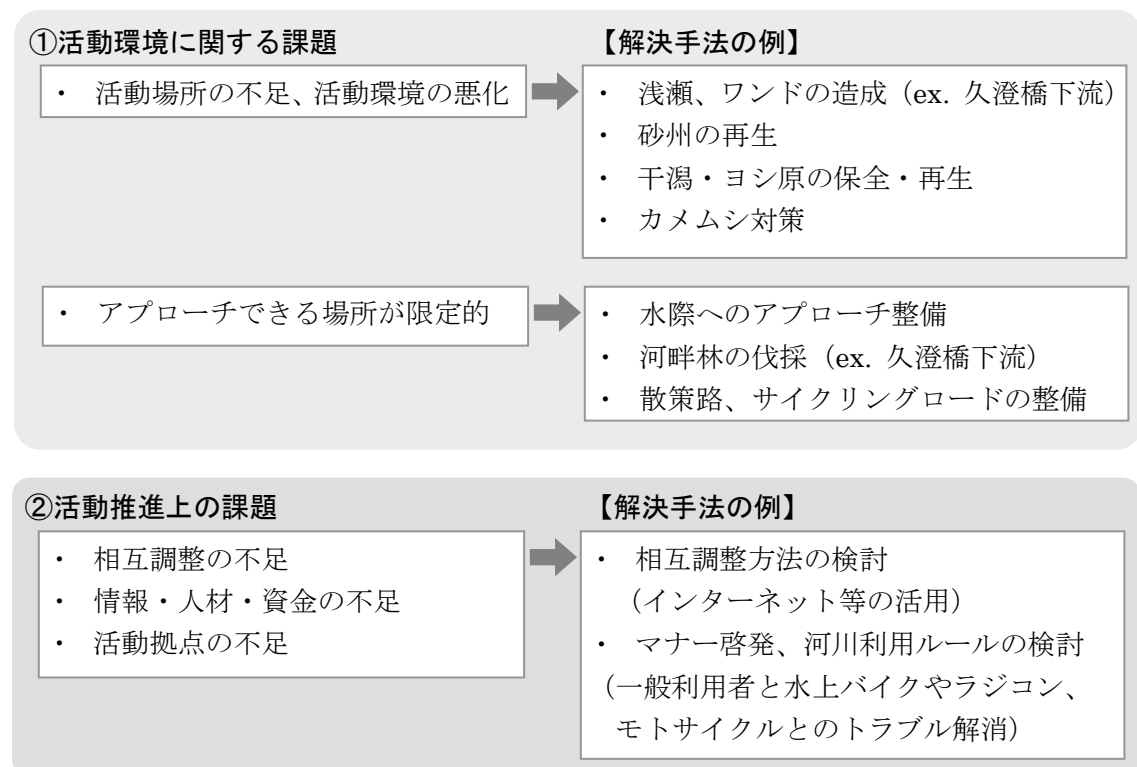
地先の課題モデルは、昨年度と今年度に1回ずつ1日バスツアーで現場調査を実施してきました。本日が今年度最後のWGで、これまでの現地調査結果を踏まえて、地先モデルの現状と課題の整理、解決策の検討を行います。

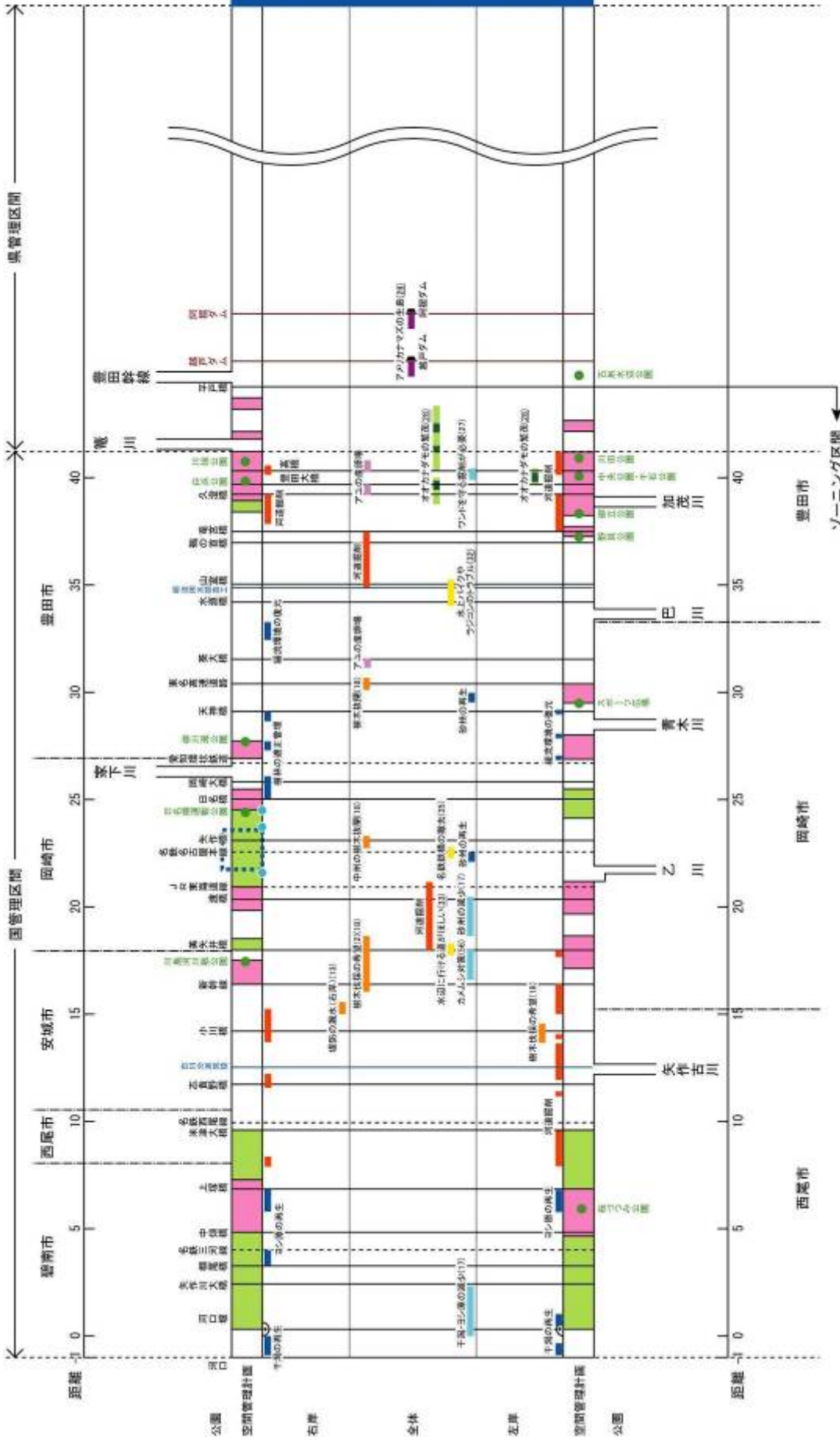
#### 【スケジュール（案）】



### (3) 地先に関わる主な検討テーマ

「活動環境に関する課題」と「活動推進上の課題」の2つの視点で課題を整理し、地先モデルの検討テーマとしています。





凡例

■ 自然利用ゾーン (空間管理計画より)	■ 河川関係 (河川整備計画より)	● 公園
■ 整備ゾーン (空間管理計画より)	■ 治水対策 (河川整備計画より)	● 水辺の家
■ アースワークゾーン (空間管理計画より)	■ アメカナマズの生息 (アメカナマズ生息地保護計画より)	■ 生物多様性確保に関する課題 (国・県の関係で指定された課題のうち、国・県が実施するもの)
■ 河川利用の空域 (河川利用管理計画より)	■ アユの産卵場 (河川整備計画より)	■ 治水対策に関する課題 (国・県の関係で指定された課題のうち、国・県が実施するもの)
	■ オオカナダモの繁殖 (濃緑が密・緑色が疎)	■ 河川利用に関する課題 (国・県の関係で指定された課題のうち、国・県が実施するもの)

※ 意見文末の( )は、「矢作川試験区における課題」の区分番号。  
 ( )内の数字の「(アンダーバー)」は、1A(地先の課題)として分類されたものを示す。

■地先の課題 (例)

#### (4) 第2回全体会議で示された課題と解決の方向性

第2回全体会議で示された課題と解決の方向性は、以下のとおりである。

##### ■地先モデル1回の調査箇所

調査場所	活動環境に関する課題	活動推進上の課題
美矢井橋下流	○カメムシ対策	○利用ルール（ゴミ捨て等）
乙川		○活動上の課題等（菅生川を美しくする会）
日名橋下流	○サイクリングロードの整備	○活動上の課題等（水と緑を守る会岡崎）
家下川合流点付近	○サイクリングロードの整備	

##### ■課題と解決の方向性

###### 1) 活動環境に関する課題

- 美矢井橋下流のカメムシ対策現場では、地域性のある生物相に対応するため、流域圏における**各種専門家のプラットフォームが必要**であることが認識された。(ex.西三河野生生物研究会)  
→ **解決の方向性：(仮)専門家リストを作成、運用**
- 散策路やサイクリングロードは、地元要望によって異なる整備の考え方を持つ場合がある。堤防⇔高水敷という横断的な連続性（アクセス）だけでなく、**縦断的な連続性を確保する必要**があるが、そのためには、**関係機関の相互調整の場が必要**である。  
→ **解決の方向性：関係機関調整（地元自治体間など）の場の提供**

###### 2) 活動推進上の課題

- 美矢井橋下流では、不法投棄の対策（看板設置、夜間巡視、監視カメラなど）を実施しながらも、課題解決に至っていない。  
→ **解決の方向性：利用ルールの作成・啓発など、今後検討が必要**  
(人が川に意識を向けることも方向性の一つ)
- 活動団体のマンパワーで、どの程度の活動が可能か。**人的資源の確保が必要**である。  
→ **解決の方向性：潜在的なマンパワーの掘り起こしの検討（先行事例：矢作川森林塾の活動に豊田東高校が参画）**
- 乙川では、菅生川を美しくする会が河川美化活動を継続しているが、**資金は毎年ぎりぎり**の中で活動を実施している。  
→ **解決の方向性：活動資金獲得方法などについてヒアリングを実施するなど、今後検討が必要**

###### 3) 地先モデル運営上の課題

- 共有された地先の課題は限定的であり、既存資料からの抽出だけでは十分な掘り起こしができていないと考えられ、**地先の課題の全体像が掴めていない状況**である。  
→ **解決の方向性：活動団体・関係団体等へヒアリングを実施し、潜在的な地先の課題・ニーズの掘り起こし**

(5) 第2回全体会議で示された運営方針（案）

第2回全体会議で地先モデルについて示された運営方針（案）は、以下のとおりです。

- 今年度の現地調査を元に、まずは意見交換の場を設け、各課題の情報共有と解決の方向性を確認する。とりわけ、「河川空間利用に関する調整の場の提供」と「(仮) 専門家リストの作成」を優先的に検討する。
- 活動環境に関する課題は、他WG開催中にも情報共有を継続して情報共有と課題整理に努め、1日現地調査を実施し、各課題の情報共有と解決の方向性を検討する。
- 地先の活動団体等をリスト化し、情報共有の場を提供する。(懇談会への参画を期待)

(6) 地先モデル2回（9月22日開催）で議論された主な内容

地先モデル2回では、活動団体が活動している現場を調査し、市民団体主体の整備の仕方や維持管理の仕方について、確認してきました。主に議論された主な内容は、以下のとおりです。

■地先モデル2回の調査箇所

調査箇所	活動団体
古鼠水辺公園	古鼠水辺公園愛護会
有間町河畔林	有間竹林愛護会
小渡町河畔林	小渡セイゴ水辺愛護会
御立公園	矢作川森林塾



古鼠水辺公園での説明の様子



元々の竹林のイメージ

■議論された主な内容

- 今回の現地調査では、豊田市の各活動を見て回ったが、結果があがっている状況を確認できた。また、行政のバックアップが重要であると感じた。
- 大きい工事（管理用通路、広場整備など）は豊田市が行い、その後の利用や維持管理は、各地の活動団体ががんばってもらっている状況を確認できた。
- 豊田市では、実績を積んだ活動団体（現在18団体）を登録し、維持管理活動に対して、報償費を支払っている。
- 御立公園（白浜工区）の場合、拡張工事の中で環境にも配慮しようと、施工時にワーキングを開催して地域の方々と協議をして整備した。矢作川森林塾とアドプト制度を利用して、機材の支援等を行っている。現在は、豊田東高校と連携するなど若い世代にも活動の輪が広がりつつある。
- 民間と行政が屈託のないやりとりを行っていくことが、活動をうまく進めていくコツである。

## 2. 家下川モデル

### (1) これまでの振り返り

家下川モデルは、今年度2回のWGを実施し、本日が今年度最後のWGとなります。これまでの活動の振り返りは、下記のとおりです。

#### 【家下川モデルのスケジュール】

第10回WG：現地調査（課題と活動設置効果の確認）	6月13日（済）
第12回WG：家下川の課題解決策の検討について	8月26日（済）
第15回WG：家下川のこれまでの活動と今後について意見交換	11月26日（済）
<b>第16回WG：長池と承水溝の段差解消の検討</b>	<b>12月20日（本日）</b>

#### 【第10回WG（家下川モデル5回）】

- ・ 家下川ー承水溝ー長池の関係の理想形を考える必要がある。そのために、各ポイントの水位の状況を確認することとしました。
- ・ 水源確保について、用水系統の運用や家下川本川の導水の可能性（物理的な高さ等）を検討できるとよいことが確認されました。
- ・ 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護を検討していることの報告があり、確認しました。

#### 【第12回WG（家下川モデル6回）】

- ・ 家下川ー承水溝ー長池の水位やゲート敷高等の高低差について確認し、水位を確保する方法と水深を確保する方法の2つをバランスよく行っていく必要があることを確認しました。
- ・ 水源の確保にあたっては、周辺農地の地下水調査や、湧き水の活用、下水道管渠・用水路の活用などの提案がありました。
- ・ 豊田土地改良区が実施する承水溝の浚渫（深さ）への提案を、行っていくことを確認しました。

#### 【第13回WG（家下川モデル7回）】

- ・ 家下川モデルについて、排水機場の耐震対策の改修に伴い、長池 - 承水溝の水門位置を変更する必要があることから、段差解消の可能性をWGで検討する。また、承水溝の浚渫については来年度に実施する予定で、その浚渫方法についてWGで検討する。

■ 本川モデルの「課題と解決の方向性について（案）」

(本表は、WGの進行に合わせて随時修正予定)



(※第15回WGまでに出された主な意見を反映したものであり、今後精査が必要であ

### 3. 本川モデル

#### (1) これまでの振り返り

本川モデルは、今年度3回のWGを実施し、本日が今年度最後のWGとなります。これまでの活動の振り返りは、下記のとおりです。

#### 【本川モデルのスケジュール】

第9回WG：現地調査（事業実施状況の確認・改善策の提案）	5月17日（済）
第11回WG：瀬・淵、支川合流点の現地調査と意見交換	7月12日（済）
第14回WG：籠川合流点上下流の瀬・淵の現地調査と意見交換	10月18日（済）
第15回WG：瀬・淵のあり方、方向性について意見交換	11月26日（済）
<b>第16回WG：瀬・淵のあり方、方向性についてとりまとめ</b>	<b>12月20日（本日）</b>

#### 【第9回WG（本川モデル5回）】

- ・ 安永川排水樋門周りのコンクリート護岸の覆土、安永川の魚道やトンネル部の河床の工夫、安永川合流部下流の瀬への配慮等の提案がありました。
- ・ 渡合地区の災害復旧事業について、コンクリートブロックの護岸に対する問題提起があった。また、対岸の直線水路、ワンドを実験場として利用できる可能性を確認しました。

#### 【第11回WG（本川モデル6回）】

- ・ 瀬淵やワンド、砂州など、横断的な変化の形成には、低水路の川幅の広がりがあり、生物の生息環境にとって、水深が確保されている必要があることを確認しました。
- ・ WGメンバーの活動として、加茂川の段差改善の検討を行うことを確認し、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととしました。

#### 【第14回WG（本川モデル7回）】

- ・ 多様な生息環境、物理環境を目指していくこと、その手段として、低水路幅が一つのポイントになることについて共有しました。
- ・ 今後、動植物にとって、魚にとって、利用者（人）にとってなどの観点でブレークダウンして整理する必要がある。
- ・ まだわかっていないこととして、越戸ダムから流下してくる土砂、越戸ダムの堆積土砂、低水路幅拡幅による河道の応答などがあることがわかった。
- ・ 矢作川水系総合土砂管理検討委員会（以降、土砂管理委員会）に対しては、土砂供給の情報と越戸ダム下流の環境をどう捉えているかの情報提供をお願いする。
- ・ 矢作川本川（平戸橋から下流）は治水上の重要性が高く、国交省と愛知県が連携した継続的な調査（横断測量、河床材料など）を実施できるとよい。

#### 【第15回WG（本川モデル7回）】

- ・ 本川モデルについて、治水上の制約を考えつつ、白浜工区（順応的管理手法）の経過を観察して、低水路幅の拡幅後の河道の応答を確認しながら、WGとして矢作川の河川環境の多様性を保全・創出していくための解決策について検討していくこととした。



■ 家下川モデルの「課題と解決の方向性について（案）」

(本表は、WGの進行に合わせて随時修正予定)



(※第 15 回 WG までに出された主な意見を反映したものであり、今後精査が必要であ



## ■ 矢作川の河川環境の方向性について

### 1. 本川モデル7・8回で共有できたこと

目標：多様な物理環境と生物生息環境を目指すこと

- ① 動植物にとって、魚にとって、利用者（人）にとってなどの観点でブレークダウンして整理する必要がある。

目標の達成に向けて

- ① 瀬・淵・ワンドなど河川の現状について、時間の変化、距離の変化の観点で把握する必要がある。
- ② 低水路幅の取り扱いが一つのキーワードであり、白浜工区（順応的管理手法）の経過を観察し、低水路幅の拡幅後の河道の応答を確認していく。
- ③ 治水上の制約を前提として、矢作川の河川環境の多様性を保全・創出していくための解決策について検討していく。（②で得られた知見を今後実施される河道拡幅事業等に活用）
- ④ 上流の境界条件がわかれば、短期的な河床変動予測は可能である。（河床変動の長期的な予測は困難であること。）
- ⑤ 矢作川の河川環境を把握するための基礎調査（地形測量、粒径等）が必要であり、各管理者の協力が必要である。

### 2. 情報共有が必要なこと（まだわかっていないこと）

- ① 越戸ダムから流下してくる土砂の情報（供給量、粒度分布など）  
⇒土砂管理検討委員会に依頼
- ② 土砂管理検討委員会で越戸ダム下流の環境をどう考えているかの情報。  
⇒土砂管理検討委員会に依頼
- ③ 越戸ダムの堆積土砂の情報（粒度分布など）  
⇒中部電力、国交省・愛知県に依頼（それでも難しい場合にWGで検討）
- ④ 国交省と愛知県が連携した継続的な調査の実施（河道横断測量、河床材料など）  
⇒国交省と愛知県に依頼
- ⑤ 低水路幅拡幅による河道の応答 ⇒ 白浜工区をモニタリング